

Breaking One's Journey



キャンピングカーのガスについて 安全性と利便性を追求した動きが

キャンピングカー設備の燃料として利用されているLPガス。その取り扱いについて、規制緩和が実施された。これまで、ガス漏れなどの緊急時の対応はLPガス販売事業者のみに限定されていたが、消費者が対応できるようになったという。よって、消費者=キャンピングカーオーナーが緊急時の対応講習を受けていれば、販売事業者から問題なくガスを充填してもらえることになる。

この規制緩和の背景には日本RV協会の働きかけがあった。この問題に取り組んでいた日本RV協会の猪俣氏(ニートRV)によると、「協会は、国内でのLPガス充填に関する規制の見直しを求めてきました。経済産業省への要請や協議を重ね、規制緩和が進み、緊急時対応講習が実施されることになりました」とのこと。

なぜ、ここまでLPガス容器を使うことを進めてきたのか？ その理由は、RVに搭載される様々な機器の動力源となること、災害時に一時避難所として機能することなどが挙げられる。LPガスの質量販売は、便利で安心な燃料販売方法として重要なのだ。

諸外国ではLPガス容器が一般的。米国のキャンプ場ではLPガスの充填サービスも利用可能だ。欧州ではLPガスの販売がスーパーや委託販売を通じて行われ、軽量なFRP容器も使用されている。このようなLPガスのグローバル化が国内でも進みそうだ。

